

令和 2 年度(2020 年度) 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	5 3		学校名	茨城県立石岡第二高等学校						課程	全日制		学校長名		辻 武晴			
教頭名	坂本 真美										事務（室）長名		郡司 みどり					
教職員数	教諭	3 8	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	2	計	5 2	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女								
	普通科		4 7	1 1 3	7 0	8 4	6 8	8 3			1 8 5	2 8 0	1 2					
	生活デザイン科		5	3 5	4	3 2	0	3 5			9	1 0 2	3					

2 目指す学校像

「変化するグローバル社会において、活躍できる生徒を育成する学校」

「伝統の継承・再生とともに社会の変化に柔軟に対応し、生徒・保護者・地域社会からの期待に応える学校」

- 1 心身ともに健康で、礼儀正しく、明るく積極的な生徒を育成する学校
- 2 生徒一人一人が、確かな学力を身に付け、個性や適性を知り、高い志をもって進路を実現する学校
- 3 日本の伝統文化を理解するとともに、国際感覚を併せ持つ生徒を育成する学校
- 4 普通科・生活デザイン科併置の特徴を生かし、相互に切磋琢磨しながら教育の質を高め、社会に貢献できる生徒を育成する学校
- 5 学校、家庭、地域社会と連携・協働し、社会に開かれた創造性豊かな教育を行う学校
- 6 働き方改革を推進して教職員のワーク・ライフ・バランスを実現し、誇りとやりがいをもって効果的な教育活動を行う学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・自ら主体的に家庭学習を行う習慣づけができていない生徒が多いため、授業内容の理解深化が必要。 ・生徒の授業内容理解の深化のための新教育課程の確定。 ・「カリキュラムマネジメントの充実を通じた教育課程の工夫改善」研究の総括と実践。	・「主体的，対話的で深い学び」「わかる授業」の工夫改善。 ・授業内容理解の深化を支援するアプローチの研究と実践。 ・学科併置校の強みを生かし，全教科が有機的に繋がる学びの場の創出。
進路指導	・センター試験受験者は 18 名と平成 30 年に比べ増えている。一般入試まで粘り強く継続できた生徒は 10 名であった。 ・就職は 12 月までに学校紹介希望者全員が内定を得た。 ・今年度は新型コロナ感染拡大の影響で，求人については生徒にも不安が生じている。	・入学時からの高い進学目標と意識継続のための効果的かつ系統的な指導の工夫。 ・勤労観・職業観の育成を目指した対策を早期より行う準備と，より一層の工夫。 ・刻々変化していく現状に即応する情報の提供と進路実現を手助けできる体制の整備。 ・必要な情報を生徒自らが取得していく意識醸成への支援。
生徒指導	・授業開始時の取り組みにより，服装・頭髪指導等の徹底をはかり，90%を超える生徒は服装等の身だしなみが良好で，落ち着いた雰囲気である。 ・挨拶を率先して行うことや礼儀，言葉遣い等のマナーが身に付いていない生徒も見られる。 ・交通マナーについての指摘が外部から寄せられている。	・規範意識を高め，挨拶・礼儀などのマナーの向上を推進。 ・本校生徒としての自覚と誇りある行動への呼びかけを生徒会と連動して継続実施。 ・校外でも他者に配慮した行動を取ることができるよう促す，全職員での共通理解と継続的な指導。

別紙様式 1 (高)

特別活動	・紫鏡祭が中止になるなど生徒主体の行事や、部活動の大会などが中止にならざるを得ない現状である。 ・体験入部期間の遅れにより部活動加入率の低下や、大会の中止により生徒の意識が低下することが懸念される。 ・生徒会主催の諸行事を精選せざるを得ない。 ・キャリアパスポートを活用し、主体的に取り組む姿勢をさらに涵養する必要がある。	・制限のある行事等の中でも、十分に工夫し深く体験できるという経験を蓄積させる指導。 ・継続した活動に対する評価を工夫させ、部活動の意義をより深く理解させる。 ・精選後の行事の内容確認と生徒が主体的に関われるよう手厚い支援。 ・キャリアパスポート活用によって、自己有用感の醸成及び危機的状況の中での望ましい自己変容の自覚を促す。
伝統文化と国際交流	・地域の歴史や文化を発信する機会を得たことから、全生徒への拡充を図る。 ・国際交流事業やA L Tを活用した授業などを通して、国際理解教育に努めている。	・伝統文化に触れる機会を担保するために地域連携を強化。 ・国際交流事業実施についての検討と一層の内容の深化。
事務部	・予算の効率的な執行 ・校内環境等の整備 ・施設のバリアフリー化の推進	・予算を重点的に執行すべきところは執行し、経費が削減できることは率先して行う。 ・施設設備の安全面の維持や植栽等の環境整備の実施。 ・順次行っている施設のバリアフリー化を更に推進する。

別紙様式 1 (高)

働き方改革の推進	・「きんむくん」の利用の徹底や学校閉庁日の導入など働き方改革の推進。 ・勤務時間管理を通じた職員の意識改革。	・長時間労働の一層の是正と校務精選の継続と行事の見直し。 ・部活動の運営方針を遵守し、教員も生徒にも過度の負担とならない部活動の計画と実践。 ・教職員のワーク・ライフ・バランスのため、超過勤務の偏りの是正と相互注意喚起。 ・タイムマネジメントやワーク・ライフ・バランスに関する研修の実施。
----------	---	---

4 中期的目標

(1) 筑翠ルネサンス事業による体験活動を充実させることによって、生徒一人一人にしっかりした職業観を持たせ、生徒の適性や個性に合った進路の実現を図る。また、生徒の意欲的な学びを習慣化させるため授業改善の工夫を継続する。 (2) 部活動やボランティアなどの体験活動を通して、社会性を養うとともに、その仕組みや自己の役割を理解し、高い目標を持って努力し続ける態度を涵養する。 (3) 地域社会の理解と協力を得ながら、地域の文化や特色を生かした教育活動を行い、社会に開かれた学校づくりに努力する。 (4) 日本の伝統文化や国際交流の体験活動を積極的に取り入れ、自国文化と異文化理解を深めるとともに、国際感覚を育てる。 (5) 働き方改革を推進し、教員一人一人の心身の健康保持の実現と、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整備することにより教育の質の向上を図る。
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
① 筑翠ルネサンス事業の位置付けを明確化して実施し、伝統の継承・再生のための体験や国際交流体験活動を定着させる。	・「本物」「一流の」体験等を通して、生徒一人一人の適性に応じた職業観の育成を目指す。 ・日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を

別紙様式 1 (高)

	養う。 ・内容を十分検討した上で国際交流事業の継続を図り，生徒の国際理解を深化させる。
② 基本的生活習慣の定着と規範意識やモラルの向上を図る。	・道徳の授業や道徳プラスの授業等，規範意識やモラルを高める取組を充実させる。 ・生徒に自律的で責任ある生活習慣を身に付けさせるため，生徒会等と連携し，基本的生活習慣の定着を促す。 ・服装指導や生活指導を全職員が共通理解のもと，計画的・継続的に実践する。 ・生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について機会を捉えて啓発し，その向上を図る。
③ 他者に配慮し，協働して問題解決を図ることができる態度を育成する。	・教育的ニーズに応じた配慮や支援を継続して行い，生徒一人一人の状態や特性を理解し，多様性を尊重する姿勢の範を示す。 ・困っていることや配慮してほしいことを，自らの方法で相手に伝えられるよう，生徒のコミュニケーション力を育成する。 ・不登校・いじめ等の未然防止と解消に向けて，生徒の動向を時代に即応して把握し，早期の適切な対応に努める。
④授業展開の工夫改善を行い，生徒の学力及び体力向上を図る。	・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を通じて，生徒が自ら課題を設定し，その解決に向けて協働していく力を育成する。 ・体育・スポーツ活動と体力の向上に取り組む。 ・授業研究や校内研修を積極的に進め，授業力の向上に努めることで，生徒の学力及び体力向上を図る。
⑤部活動やボランティア活動などの体験的な活動への積極的な取組を行う。	・教職員のサポートのもと，部活動活性化と充実を図るための取組みを進める。 ・生徒会の主体的な活動を促し，生徒の自立的，協働的な活動の活性化を推進する。 ・ボランティア活動などの体験的な活動への参加を促し，自己有用感の育成を図る。
⑥「なりたい」を「なる」に鍛える職業観・勤	・入学時からの高い進学目標と意識継続のための効果的かつ系統的な指導を工夫する。

別紙様式 1 (高)

労働観を育成し、生徒の進路希望を実現する。	・ 労働観・職業観の育成を目指した対策を早期より行うとともに、インターンシップ等への参加を徹底させる。 ・ 刻々変化していく現状に即応する情報の提供と、必要な情報は生徒自らが収集していく意識を醸成させる。 ・ 従来の大学・専門学校・企業などの見学やガイダンスを再度検証し、生徒の個に応じた進路指導を一層推進する。
⑦生活デザイン科生徒の学びを一層充実させ、高い専門性を身につけ地域に貢献できる生徒を育成する。	・ 課題研究の実践をより深めていき、その学びの成果を学校、保護者、地域、中学生等に発信することで生活デザイン科の専門性の向上と意義を一層高める。 ・ 家庭科技術検定・各種体験活動、コンクールへのチャレンジや課題研究発表会等を通じて、生徒の達成感や自己有用感を高める。
⑧開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域の声を真摯に受け止め、また広報・生徒募集活動の充実を図る。	・ 学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果、それらを盛り込んだ学校 PR 動画の作成など、中学生や保護者、さらには広く県民に発信し、生徒募集、広報活動を積極的に展開する。 ・ 本校の教育活動を周知するためのホームページや Twitter の運用をさらに充実させ、常に斬新な広報活動を全職員一丸となって実施する。
⑨働き方改革として長時間労働の是正だけでなくダイバーシティの推進など、柔軟な働き方ができる職場環境づくりを実践する。	・ 教職員のワーク・ライフ・バランスのため、校務精選の継続及び衛生委員会と連動した研修を実践する。 ・ 部活動の運営方針を遵守し、教員も生徒にも過度の負担とならない部活動の計画・実践を図る。